

令和4年度 学校評価書

四万十市立大用中学校

学校長 田辺 長美 印

1. 学校教育目標

「自ら学ぶ意欲をもち、心豊かでたくましい生徒の育成」

2. 本校の現状

学力面では、令和3年度全国学力・学習状況調査(全国比 国語+4.4 数学+10.8)及び令和3年度高知県学力定着状況調査結果では1・2年生ともに5教科のうち、2年生の英語を除いて全国並びに県平均正答率を上回っており、概ね学力は定着しているものの学年や教科により定着状況に差がみられる。また、本年度実施した標準学力調査でも全教科で全国平均正答率を上回っている。しかし、2年社会では全国比+0.3とほぼ全国と同等の状況だった。学校全体としては、概要や複数資料等の読み取り、根拠をもとに論理的な説明に弱さがみられる。

生活面では、全学年全生徒が素直で落ち着いて学習に取り組み、その場の状況に応じて適切な行動を取ることができる。生徒会活動や行事等においても協力し合い、全校生徒で上手に関わり合えることができている。今後はさらに、集会や全校道徳など全学年での関わり合いを仕組むとともに、あらゆる場面で自己表現する機会を設け、生徒が自主的に活動できる取組の工夫が必要と考えている。

家庭や地域が学校に協力的で、部活動指導や地域の伝統行事に熱心に対応してくれており、学校・家庭・地域が連携して生徒の健全育成に取り組む風土が確立されている。近年の生徒数減少に伴い、学校・家庭・地域が一層連携することで、この地域ならではの取組を継続・工夫しながら心豊かでたくましい生徒の育成に努めていきたい。

3. 本年度の評価項目

- [1] 学力向上
 - ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
 - ②子どもにわかる授業づくり
 - ③予習・復習の質と量を高める取組
 - ④ICT機器(クロムブック)の効果的な活用
- [2] 生徒指導
 - ①いじめの防止等のための取組
 - ②不登校への総合的な対応のための取組
 - ③キャリア教育の推進
- [3] 学校・家庭・地域の連携・協働
 - ①小中の円滑な接続の推進
 - ②みんなであいさつ運動(市独自)
 - ③地域と連携した体験学習の推進
- [4] 働き方改革(業務改善)
 - ①定時退校の取組
 - ②部活動の取組

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評価	次年度の方策
大	中				
	①学力向上のための組織的な研修等の取組	①年間5回(全教員1回以上)の研究授業の実施100% ②各教科「見方・考え」の共有 校内研	①全教員研究授業 年間8回 100% ②校内研修で教科の見方・考え方の共有 4回 100% ◇校内研修で社会・数学・理科・英語の学習指導要領を読み合わせ、各教科の「見方・考え方」を共有することができた。	4	□校内研修体制の整備 ・各教科でつきたい力を明確にした単元計画の作成、共有 ・生徒が意欲的に授業に取り組めるよう、生徒の視点を大切にした模擬授業の実施

〔1〕 学力向上	②子どもにわかる授業づくり	①授業力チェックシートにおける「主体的・対話的な授業」の評価3.5以上 ②生徒の授業評価「自分の考えを表現できる」「自分の考えを表現できる」	①「主体的・対話的な授業」評価 75% ②生徒の評価「自分の考えの表現」、「考えを広げる」4.0 ◇全教員が分かる授業づくりを意識し、基礎・基本の確実な徹底に取り組めた。 生徒が疑問をもち、自分事として考え、生活と関連づけた授業づくりの工夫が必要である。	3	3	□授業改善 ・生徒主体となる授業の研究、共有 ・学習指導要領解説の熟読・理解 ・生徒が主体的に取り組むよう単元ゴールの明確化・活用
	③予習・復習の質と量をも高める取組	①生徒会からの家庭学習ノートの共有の呼びかけ 各学期1回以上 ②家庭学習の状況の共有 月1回以上	①生徒会から自主ノートの共有呼びかけ 66.7% ②家庭学習の状況共有 100% ③家庭学習時間90分以上 66.7% ◇生徒会執行部や学習部から家庭学習の充実や自主ノートの共有を呼びかけることができた。生活調べを毎月実施し、生徒の家庭学習を把握・共有できた。	3		□家庭学習の質の向上 ・予習・復習・授業のつながりを意識した教科指導 ・生徒の意欲、興味関心を高める家庭学習の工夫 ・家庭と連携した家庭学習のあり方の研究、広報の工夫
	④ICT機器(クロムブック)の効果的な活用	①クロムブック(デジタルドリルや便利な機能)の活用を全教員で共有 年4回以上 ②「学習状況アンケート」で『授業ではICT機器をよく使	①クロムブックやICT活用の共有、研修 年2回 ②ICT活用の肯定的評価 73% ◇教科によりタブレットやデジタル教材の活用に差がある。情報交換や実技演習を計画的に仕組み、授業での有効活用に取り組む。	2		□ICT機器の活用・研修 ・教育活動でICT機器を有効に活用できるよう、全教員参加型の研修を計画的に実施 ・校内研修等で進捗状況を把握し、定期的なPDCAの確認
〔2〕 生徒指導	①いじめの防止等のための取組	①学校生活(いじめを含む)アンケートを年3回以上 ②各学期に個人面談の実施100% ③生徒支援会にて情報共有・交換の実施 月4回以上	①学校生活アンケート年3回 100% ②各学期個人面談 100% ③支援会での情報共有月4回 100% ◇校内研修・職員会で全生徒の状況・情報を定期的に共有し、学校での対応を確認・統一して行うことができた。生徒の「学校が楽しい、自分の学級が楽しい」学校評価と学校生活アンケート共に100%だった。	4	4	□学校行事等の充実 いじめ防止の手立て ・多面的な生徒観察 ・個に応じた対応や支援の工夫 ・校内での情報共有、対応の共通理解
	②不登校への総合的な対応のための取組	①SCやSSW等との情報共有 月1回以上 ②全校道徳や生徒会主催のレクリエーション等の実施 各学期1回以上	①SC等との情報共有 100% ②全校道徳 年1回 生徒会主催のレクリエーション 年4回 ◇SCやSHLの訪問時には生徒の様子を共有し、迅速・丁寧な対応を継続できた。学校全体で生徒を「褒める・信頼する・任せる」場面を増やすよう取り組むことで生徒の安定した学校生活につながった。学校評価「気軽に相談できる」生徒 83.3% 保護者 100%	4		□仲間づくりの工夫 ・学校生活アンケート等を活用した生徒理解 ・生徒や学級の実態に応じた面談の実施 ・校内相談体制の整備 ・安心安全な環境整備
	③キャリア教育の推進	①キャリア教育の視点を取り入れた学校行事、総合的な学習の時間の実施 85%以上 ②学校評価アンケート	①キャリア教育の視点を取り入れた学校行事、総合的な学習の時間 100% ②学校評価アンケート「目標をもった学校生活」生徒 100% ◇生徒の思考・希望を重視し、生徒主体の取組を行うことで生徒の課題対応能力や企画力が向上した。ふるさと教育の取組を通して、生徒全員が地域への感謝と地域の一員としての自覚が高まった。	4		□キャリア教育の充実 ふるさと教育の推進 ・各教科と学校行事、総合的な学習の時間をキャリア教育の視点でつなぐ ・全教職員がめざす姿やつきたい力の共通理解、定期的な確認
〔3〕 学校	①小中の円滑な接続の推進	①小中合同職員会・校内研修 年6回以上 ②小中合同の学校行事の実施 年3回以上	①小中合同職員会・校内研修 年6回 ②小中合同学校行事 年5回 ◇合同職員会や校内研修、学校行事を計画的に実施できた。児童生徒の実態を把握し、小中9年間の系統的な取組やつきたい力を共有することができた。	4	□小中の連携強化 ・計画的な小中の授業参観・交流 ・小中でつきたい力の共通理解 ・年間を通じて報告・連絡・相談	

以・家庭・地域の連携・協働	②みんなであいさつ運動	①小中PTAによる毎月のあいさつ運動の実施 100% ②生徒会による週1回のあいさつ運動の実施	①毎月のあいさつ運動 100% ②生徒会によるあいさつ運動 100% ◇生徒全員にあいさつ運動が定着しており計画的に実施できた。登校や通勤の車との対面時間が限られているので、生徒の充実感に合う活動を工夫する。	4	4	□交通安全の意識づけ ・小中で連携した「あいさつ運動」や交通安全の取組の工夫 ・生徒にとって充実感につながる取組の工夫
	③地域と連携した体験学習の推進	①地域と連携した学校行事等の実施 年3回以上 ②地域人材を活用した学習の実施 年2回以上	①地域と連携した学校行事 100% ②地域交流・体験学習 100% ◇コロナ禍のため活動の縮小や時間短縮も必要な行事もあったが、現状に則した活動を工夫して行うことができた。当初の計画を見直し、地域と調整の連絡を取り合う機会が増え、連携の充実につながった。	4		□地域との連携強化 ・「富山の子どもを育む会」「地域学校協働本部事業」との連携、情報共有 ・地域や関係機関との連携 ・学校通信やHPでの情報発信
(4) 働き方改革(業務改善)	①教職員定時退校の推進	①教職員と協議した定時退校日の実施 月2回以上 ②会議等の開始時に終了時刻の確認 月3回	①一斉退校日には、退出時刻を全員が確認し、月2回以上一斉退校することができた。 100% ②会議終了時刻の確認が2学期後半以降できないときがあった。 80% ◇一斉退校日の確認・声かけにより、業務の優先順位への意識づけとなった。校内の情報交換や協働意識が高まった。	3	3	□働き方改革の推進 ・チームで仕事を進められる協働体制の工夫 ・風通しのよい、声がかげやすい環境づくり ・笑顔や笑い声がある職場環境
	②部活動の工夫	①部活動での活動内容等を全教職員で情報共有 学期2回以上 ②部活動担当以外が部活動への参加(事前に校内で確認)	①校内研修等で部活動の内容や生徒の様子を学期2回以上共有 100% ②出張等の場合、事前に校内で調整し対応 100% ◇定期的な情報共有を行い、全教職員が部活動の状況を理解し、対応することができた。	4		□部活動の充実 ・活動内容や生徒の状況を定期的に校内で共有 ・部活動計画をもとに計画的な活動運営 ・開始や終了時刻の確認、徹底

4段階評価(4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する)

5. 学校関係者評価

- 生徒全員が元気で明るく、何事にも協力し合って前向きに学校生活を送っていると思う。
○小規模の学校のよさをいかし、生徒の視点を大切にされた教育活動に取り組んでいる。
○保小中連携や地域とのつながりを大切にされた取組が行われており、子どもたちが地域のすばらしさを実感できる恵まれた環境にあると思う。
●インターネットやパソコンの活用など、社会の状況に合わせてICT機器に関する取組の工夫も必要かと思う。
●どの生徒も自信をもって「勉強がわかる、楽しい」と言えるように、さらに授業力を高めてほしい。